

市民相談の中から(ジェネリック医薬品の推進について)

問

市民にジェネリック医薬品希望カードを作成し発行できないか、市の見解を伺いたい。

答

平成十九年市報七月号で、ジェネリック医薬品(後発医薬品)についてお知らせしているが、ジェネリック医薬品は、本人の医療費の自己負担額の軽減や、保険者の医療費の削減等につながる。ジェネリック医薬品希望カードを作成し、発行できないかという点については、各保険者の考え方や関係機関との協議も必要となるので、今後、国の動向を注視しながら対応を検討していきたいと考えている。

○その他の質問項目 (健康づくり課)

「福祉行政について(救急医療情報キットの配布について)」ほか

熊谷市における農業施策について

問

①本市の主な農業施策は②産業祭の人出・出店場所・会場について、それぞれ伺いたい。

答

①本市の主な農業施策には、転作作物の拡大を推進する水田農業構造改革事業、地産地消を推進する産地づくり対策事業、認定農業者等の担い手を育成する担い手育成支援事業などがある。②産業祭は毎年、二日間で六万人の人出がある。今年度は、『熊谷小麦まつり』による混雑が予想されたため、毎年、長い列ができる参加団体の出店場所を移動するなど、混雑解消の措置を取った。そのため、前年と出店場所が変わった参加団体もあった。会場は農産物共進会が開催可能であることや広い駐車場と出店場所が確保できる熊谷スポーツ文化公園で、合併以来、開催している。市街地での開催については、農産物の陳列場所確保の課題が解消できれば、大変、有意義なものであると考えている。

(農業振興課)

二〇一九年ラグビーワールドカップ日本開催に向けてラグビータウン熊谷市の対応について

問

ラグビーワールドカップ日本開催について、市長の所感を伺いたい。

答



ラグビー日本代表とのふれあい授業(熊谷西小学校)

問

オリンピックやサッカーワールドカップに匹敵するビッグイベントであるラグビーワールドカップが、二〇一九年に日本で開催されることは、誠に喜ばしいことである。世界の強豪チームの試合を国内で観戦でき、ラグビーの魅力に触れる素晴らしい機会であり、青少年に大きな夢や希望を与えてくれる。

また、ラグビータウン熊谷としても昨年から日本代表が定期的に、県営熊谷ラグビー場

でベースキャンプを行い高い評価を得ていることから、何らかの形で、ワールドカップ開催に関わり熊谷市を世界に発信する絶好の機会にしたい。(保健体育課)

○その他の質問項目 「住民票・印鑑証明等のコンビニ交付について」ほか

合併後の施策整合状況と四年間の総括

問

新熊谷市発足後、四年間の市長の総括的見解を伺いたい。

答

二度の合併による二十万都市実現とともに市民の融和を図りながら本市の土台づくりに全力を挙げてきた。特例市への移行を果たせたことは、本市の長い歴史においても大きな前進である。自治基本条例の制定や総合振興計画の策定により、広く市民の参画をいただき将来ビジョンに向けた方向性が示されたことは、本市発展の礎作りとなった。また、合併によるスケールメリットを生かしながら行財政改革を推進し、市債は、約百十八億円の減少、人件費は、百九十人を超える職員減による約二十三億円の削減等により、自治体としての体力アップが図られた。(企画課)

(商業観光課)

○その他の質問項目 「改正農地法」ほか

グリーンツーリズムについて

問

グリーンツーリズムをどのようにとらえているか伺いたい。

答

グリーンツーリズムは、農山漁村地域が持つ多彩な地域資源を活用し、農山漁村に暮らす人々と、都市に暮らす人々の交流を行うもので、地域の活性化に大きく寄与するものである。そこでの自然活動や農業体験等は、地域の中でのふれあいを重視したスタイルで行われ、より深く大きな感動を得られる。本市には、里山に象徴される自然豊かな農村風景や人々の営み、特色ある農産物、歴史と伝統に裏付けられた祭りや貴重な文化遺産がある。こうした魅力的な地域資源を複合的に活用し、多様化する個人のニーズや価値観等に対応した「熊谷型グリーンツーリズム」を進めていきたい。